

協働事業相互評価結果

事業名	居場所から社会的自立を目指して －「若者」と、地域と人とのつながりをつうじて－
団体名・県協働部署名	NPO法人月一の会・県立青少年センター

※4段階の評価は次のとおりですので、いずれかに○をつけてください。
A(大いにそう思う) B(そう思う) C(あまり思わない) D(そう思わない)

1 協働事業の成果について

項目	内容	評価
目的	事業の目的は何でしたか。	「ひきこもり等青少年自立支援プログラム」を活用し、「社会問題・地域課題に関わる取組みをとおした、ひきこもり等青少年の自立支援事業」を実施。事業成果を実践事例集としてまとめるとともに、事例発表会の開催などとおして、自立支援の取組みの普及と拡大を図る。
目標	事業ごとの目標は何でしたか。	ひきこもりの若者が実行委員会を組織し、研修旅行や講演会の企画・運営をし、「ひきこもり」という社会問題の解決に取り組む。また、他の非営利団体での職場体験をとおして、それぞれの団体のミッションを理解し、社会問題・地域課題の解決に取り組む。これらをとおして、ひきこもりの若者が、支援される立場から、社会に参加し、貢献する立場となる。
協働の効果	協働することで、単独で事業を行うよりも効果やメリットがありましたか。	○A・B・C・D
社会的認知の獲得	県民や社会への理解を広げるため、取り組んだ事業やその成果の情報発信(PR)を行いましたか。	○A・B・C・D
新たなネットワークの構築	この協働事業を通じて、関係機関や他の団体などと新しいネットワークを築くことができましたか。	○A・B・C・D
社会へのインパクト	協働事業の実施により、社会へのインパクトや県の施策へ影響を与えることができましたか。	A・B・○C・D

2 協働事業における協議の状況について

項目		内容	評価
企画段階	目標共有	企画立案事業計画や目標の立て方について、団体と県とは事前の調整や協議を十分行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> A ・ B ・ C ・ D
	対等な立場での協議	団体と県とは対等な立場で協議を行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> A ・ B ・ C ・ D
実施段階	意思疎通	意思の疎通を円滑にし、事業の進捗状況を確認するため、団体と県とはメールや電話でのやりとりや定期的な協議を行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> A ・ B ・ C ・ D
	相互理解	相手方のフィールド(県の協働部署)に足を運び、置かれている状況や立場についての理解に努めましたか。	A ・ <input checked="" type="radio"/> B ・ C ・ D
	自立性	団体と県とはそれぞれの役割と責任を自覚し、一方通行であったり、どちらかに過度に依存したりすることなく事業を進める努力をしましたか。	<input checked="" type="radio"/> A ・ B ・ C ・ D
	対等な立場での協議	団体と県とは対等な立場で協議を行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> A ・ B ・ C ・ D

3 協働事業における役割分担について

項目	内容	評価
役割分担の適正性	協働事業の役割分担は適正でしたか。	<input checked="" type="radio"/> A ・ B ・ C ・ D

4 協働事業全体を通しての評価

項目	内容	評価
協定書	事業を効果的に実施するための適正な内容の協定書を結ぶことができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい ・ いいえ
「協働」という手法の有効性	この事業の課題を解決する上で、協働という手法は有効だと思いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい ・ いいえ

5 相互評価を行った結果について

相互評価をして気がついた点、改善点等	協働事業の成果	ひきこもり青少年の支援という視点では、双方共に事業成果を認めているが、社会へのインパクトという項目は、あまり意識していなかった点であり、今後はより意識した取り組みが必要である。
	協働事業における協議の状況	委託契約時、検討会(2回)、団体を訪問しての意見交換など、協働事業の実施にあたっては、対等な立場で協議をすすめることができた。
	協働事業における役割分担	適正な役割分担を、適正に果たすことができた。
	全体を通して	良好な関係のもと、事業を実施することができた。